



将来のあり方が検討される日吉台小

日吉台小規模適正化説明会

2月2日、市民センターで 市教委

将来のあり方検討へ

父母ら統合、不安視

市教委公表の市立小中学校の規模適正化ビジョン素案で、小規模校として統合も含めた検討対象校として名前が挙がった日吉台小中学校の適正化に関する説明会が2月2日午後7時、市民センターで開かれることになった。同市教委の規模適正化ビジョンについて、将来日吉台小が統合されるのではないかと父母らの間で不安の声が挙がっている。

対象は、市教委が昨年秋提示した市立小中学校規模適正化ビジョン素案のなかで、検討が必要として記した全学年でクラス替えができない小規模校と、1200人を超える大規模校を持つ地域。説明会では、市教委から規模適正化ビジョンの概要、基本的な考え方、日吉台小の現状と今後の

予測、検討の進め方など概要版パンフレット、パワーポイント印刷資料などを使い説明、参加住民と意見交換も行う。参加対象者は保護者、地域住民、学校関係者。保護者には、学校を通じてチラシ配布、住民対象には広報おおつへの掲載や支所への掲示、プレス発表などで周知する。

市教委の規模適正化ビジョン素案は昨年10月3日開催の市自治連役員会で公表。日吉台小は、28年度児童数計157人で全学年1クラス。中北部地域ブロックで、全学年クラス替えができない、統合も含め検討が必要な小規模校として学校名がリストアップされている。



HIYOSHIDAI
平成29年1月1日

発行

日吉台学区自治連合会
日吉台学区まちづくり協議会

発行責任者

林 堅太郎

編集責任者

村澤 真保呂

題字は
4-11-2
梶谷清苑さん

子どもたちから標語募集

バス乗車キャンペーン

学区まちづくり協議会は、住宅街を循環する江若バス利用促進を図るキャンペーンのひとつとして、日吉台小に通う子どもたちから「もつと江若バスに乗ろう」の標語を募集する。子どもたちや父母らにバス問題への関心を高め、用促進を高めるのがねらい。2学期終わりに小学

議会からの賞品と日吉台新聞2月号で作品を紹介する。問い合わせはまちづくり協議会事務局長の村澤さん（090・4280・9541）。

校で応募用紙を配布、3学期初めに回収する。優秀作品の標語は、キャンペーン用ののぼりや告知チラシなどに使用する。

ゴミ捨てあかん

ノーポイ運動で呼びかけ



ごみ減量と資源再利用推進会議（会長、清水耕二市自治連合会長）の中北部ブロックは12月3日、買い物客でにぎわう大津市坂本の平和堂坂本店前で「ノーポイ運動」の街頭啓発活動を行った。写真。県ごみの散乱防止に関

する条例に定める12月1日の環境美化の日を行動基準日に、毎年市内ブロックごとに街頭啓発や駅、道路などで美化清掃活動をしている。市自治連傘下の唐崎学区、下阪本学区、坂本学区、日吉台学区、雄琴学区の中北部ブロックでは、雄琴学区が平和堂フレンドマート雄琴店前で街頭啓発、唐崎学区は学区一円で清掃活動を実施、坂本、日吉台、下阪本の3学区は平和堂坂本店前で啓発活動になった。

市、認定こども園で説明

可能性含め問題点も論議

市立日吉台幼稚園に代わる施設として浮上している認定こども園について、大津市の福祉こども部と同市教委の担当者が12月4日開催の「学区まちづくり協議会」に出席、認定こども園の制度や仕組み、市の取り組みについての考え方を説明した。

出席したのは井上佳子・市教委教育次長、徳永真一・福祉こども部こども政策監ら4人。この日の協議会で、市は、認定こども園について「教育と保育を一体的に行う施設」と説明。「これまで小学校就学前施設として幼稚園と保育所があるが認定こども園は、幼稚園と保育所の機能や特長など両方の良いところをあわせ持ち、地域の子育て支援も行う施設」と述べ「保護者が働いている状況にかかわらず3〜5歳のどの子どもも教育、保育を一緒に受ける。また、途中で保護者が仕事を辞めるなど勤務状況が変わった場合でもそのまま通園できる」とこども園の良さを強調、0歳児〜2歳児も認定こども園で保育する、とした。

市内では今年4月現在、8法人が10園の認定こども園を運営。0歳児から5歳児まで1、432人の子どもたちが保育、教育を受けている。市はこのあと市内藤尾地区に進められている認定こども園設置計画を例にあげ、設置法人公募から開園まで約2年程度かかることを説明。協議会員から日吉台幼稚園を認定こども園に転換する場合や近隣の坂本地区に三重県が法人が保育園を開園する問題についての質問に対し徳永政策監ら市

認定こども園とは

認定こども園とは、どのような施設なのか。3日開催のまちづくり協議会を訪れた市の福祉こども部は、東京都台東区の公設、公営「幼保連携型認定こども園・石浜橋場こども園」の運営状況を例に説明した。

説明によると同園では、1歳児から5歳児の計122人が在籍している。（平成25年9月現在）。園での1日の生活の流れを見ると1〜2歳児の乳児は午前7時15分から午前9時までの朝の時間に順次登園、お遊びやお昼

寝などをして園での生活を楽しみ午後5時から午後6時15分までの間に家族のお迎えを待ち順次降園してゆく。さらに保育の必要な乳児に対しては午後7時15分まで延長保育がある。3〜5歳児については、短時間保育と長時間保育の2コースを設定。午前7時15分から午前9時までの朝の時間に短時間保育、長時間保育の園児と

も順次登園。午後2時まで長、短保育児ともに幼児教育の時間を過ごす。短時間保育児は午後2時に降園するが長時間保育児は午後2時以降午後5時まで預かり保育時間に入り、同5時以降順次降園。さらに保育が必要な園児は午後7時15分まで1〜2歳児同様、延長保育が実施されている。長時間保育児のコースでは、土曜日や夏休みなど長期休暇の間の保育も受けられる。保育料は、国が決めた上限基準に基づき、地域の実情を考慮して所在地の市が決めることになっている。

この日は、3学区から自治会役員、環境委員ら約13人が参加。参加者らは「あかんでポイ捨て！」ののぼりが立つ同店前街頭で、行き交う買い物客や家族連れらに「市指定

「ごちそうさま」を宴席で



30 乾杯後、30分は自席で食事を楽しみましょう。
10 お開きの前の10分は自席に戻って食べ切りましょう。
食品ロス削減のため、宴席での料理を食べ切る運動にご協力。
ごみ減量と資源再利用推進会議・大津市



たのしいなクリスマス



クリスマス会でハンドベルを演奏するおかあさんたち

ハンドベル演奏に小さな手で拍手

日吉台幼稚園

市立日吉台幼稚園は12月17日、地域の未就園児と父母らを招いてクリスマスお楽しみ会を開いた。お楽しみ会には、園児8人、未就園児17人、小学生5人が出席。園児の保護者や地域の人らによるハンドベル「きよしこの夜」「ジングルベル」

などおなじみのクリスマス歌の演奏が始まり、この日のために一生懸命練習したというハンドベルの音に園児たちは小さな手で大きな拍手を送っていた。

この演奏が終わると遊戯室から鈴の音とともに園児の保護者が扮したサ

ビンゴゲームで一喜一憂

4丁目げんきクラブ

4丁目の老人クラブ「げんきクラブ」（中西耕司会長）主催の「クリスマス」のつどいが12月18日、4丁目西集会所で開かれた。

このクリスマスのつどいには、4丁目に住む子供たち21人と保護者らの大人29人が参加。日吉台に住むお母さんら6人による「ハンドベル」演奏でつどいのスタート。子どもたちはケーキを食べながらアニメ映画を鑑賞

盲導犬と体験学習

日吉台小



盲導犬を招いて行われる日吉台小の体験学習

した後ビンゴゲームに一喜一憂、クリスマスのひとときを楽しんでいた。

「目が見えないってどんなこと」をテーマに11月8日、日吉台小4年生の総合学習に、市内在住の目の不自由な前田真里さんと盲導犬「トラム君」を招き、お話を聞いた。

前田さんは、10数年前交通事故が原因で視力を失った。盲導犬「トラム君」と一緒に生活をするようになり、トラム君の手助けで街中でも安全に行動できるようになったという。

この授業で、子どもたちは、前田さんからトラム君との生活のなかで工夫していること、困って

好評野菜マルシェ

定期市開催へ



にぎわう野菜マルシェ

学区まちづくり協議会が行う「野菜マルシェ」は、毎月第2土曜日、午前10時、旧滋賀銀行日吉出張所前アーケードで定期開催をしている。

野菜マルシェは昨年6月初市。スタート以来、参加生産者5軒から12軒に増加、お客さんも多いときには100人を超えることがありにぎわっている。「採れたて新鮮野菜が徒歩で買いにゆけるなんて。20年ほど前の商店街を思い出す」と好評。マルシェスタッフは「野菜だけでなく今は雑貨も手掛けたい。少しでも商店街がにぎわえばうれしい」と張り切っている。

園児らの作品展

日吉台幼稚園



日吉台幼稚園児たちの作品展が11月25日から3日間の日程で、同幼稚園で開かれた。

園児たちが、遊びのなかから創造した絵や思いついたものをいろいろな材料や廃材を利用して形にしたもので、大人では考えられないようなおもしろい奇抜で想像力たっ

たII写真

作品のひとつ「魔女の迷路」は魔女が人魚から奪ったものを、人魚が簡単に取返しにこれがないようにしたグネグネ道やクモの道、クイズに正解しないと通れない道など子どもたち独自の工夫が

防犯カメラ補助申請

学区自治連

学区自治連は12月初め、学区内3台の防犯カメラの設置を求め、大津市に

ら支出を充当することに